

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年12月27日

Nature:

来年もコロナ対策を怠りなくやる必要がある

【松崎雑感】

「コロナが終わった」？馬鹿じゃないの、と言いたいくらいです。たとえば適切ではないと思いますが、津波対策のために防波堤を高くしていたが、「もう津波は来ない」と、防波堤を取り壊す動きがあります。この3年間必死に頑張っただけで感染を広がらないようにしてきたことで、現状があるわけです。戦う相手は、もっと変異するおそれがあります。堤防を取り壊すことなく、予防対策を続ける必要があります。

来年もコロナ対策を怠りなくやる必要がある

There's no room for COVID complacency in 2023. *Nature*.
2023;613(7942):7. doi:10.1038/d41586-022-04476-9

中国のきびしい流行状況を見ると、コロナパンデミックの終息はまだずっと先となるだろう。必要なことは公衆保健システムを強化するための的を絞った対策を進めることである。

今年には多くの国や地域で、様々な対策が終了となり、コロナ前の日常に戻ったように見える。政府はロックダウンを終了させ、学校が再開され、マスク着用義務を緩和したり廃止したりしてきた。国外旅行も可能となった。

楽観的な政府の見解も発表されている。1月にはデンマーク首相が、新型コロナウイルスはもはや社会の脅威ではないと述べた。

9月にはバイデン大統領が、コロナパンデミックは終わったと演説した。WHOのテドロス事務総長でさえ、2023年には新型コロナウイルスは終息するだろうと述べている。

こうした発言は、新型コロナ被害が続いている現状に対する誤った認識を示している。そのもっとも深刻な状況は中国に現れている。

中国は感染力の強いオミクロン株流行のために、ノーコロナ政策を放棄した。現在、中国の医療機関では、1年前に香港を襲った医療崩壊状況が再現されている。習近平主席がゼロコロナ政策をあきらめるかどうかに関係がなく、中国全土における新型コロナの流行は不可避だったと思われる。

しかし、中国では来年までに100万人の死亡者が発生するとの予測がなされている。これにより、膨大な企業の生産活動がストップして、中国だけでなく、全世界に深刻な経済影響がもたらされる恐れがある。

中国国民の多くは現在流行中のオミクロン株に対して十分な免疫を持っていない。ほとんどの変異株への感染歴がなく、ワクチン接種と言っても、新型コロナオリジナル株向けの国産ワクチンを接種している人々がほとんどである。

中国には、他の国々で過去に流行していた変異株が流入するだろう。したがって、これらのウイルス株に免疫を持たないため、国境開放後何種類もの株が流入するため、何回もの大流行を繰り返さなければ、集団免疫が成立しないと考えられる。その結果、重症者と死亡者が激増することが懸念される。

新たな対策が必要である

国中に繰り返し感染の波が押し寄せ、重症者と死亡者が増え、その後ロングコロナによる長期的障害がもたらされるだろう。新型コロナ対策に力をとられると、AIDS、マラリア、結核などの感染症とのたたかきもおそろかになる。犠牲者の数を正確につかむことは難しいが、国内の各地域ではこれまで以上に多くの被害者が発生するだろう。

ワクチン接種率の増加は多くの国で止まっている。重症化と死亡を大きく減らすことのできる3回目接種率が低い国も多い。

鼻腔や口腔に噴霧するなど、ワクチンを改良して接種率を高める研究が進んでいる。粘膜にスプレーすることで、重症化防止だけでなく、二次感染リスクをなくすることが期待されている。

中国、インド、イラン、ロシアで粘膜ワクチンの開発が進められている。これらの形式のワクチンが新型コロナ感染をどれだけ防ぐことができるかはまだ明らかになっていない。

新型コロナ対策を安心して緩和してはいけない理由の一つに懸念変異株の出現という問題がある。

今年も出現したように、来年も出現する可能性がある。ただし、WHOは、免疫すり抜け力が格段に強い、重症化リスクが格段に高い、感染力が格段に高い株でなければ、ギリシャ文字を付された変異株とは認定しない。新変異株出現に備えて、免疫力低下の人々へのブースター接種がとりわけ重要である。

低所得国のワクチン接種率向上も大きな課題だが、高所得国がワクチンを先取りしてしまうこと、期限切れ寸前のワクチンを散発的に低所得国に提供すること、そして、ワクチン接種のための医療的インフラが不十分であるという課題を解決しなければならない。

低所得国で一回でもワクチンを受けたことのある人々は4人に1人とどまっている。そのような国では、マラリア、結核、乳幼児死亡などの対策がおざなりにされているが、それを理由にコロナ対策を怠ると、これらの問題解決も遠ざかる。

国際社会は、人類の健康を守る活動が、政治的争いによって損なわれることを防がなければならない。来年5月にWHOの政府間交渉機関は、国際パンデミック条約のような枠組みを作ることを目指している。ワクチン、検査、治療資源が不公平に配分されないようにする仕組みを作らなければ、新たなパンデミックに対応できない。

今後出現するおそれのある新たなパンデミック＝Disease Xに対する対策を進めなければならないが、コロナは終わったという油断が、この3年間のヘルスケアシステムの疲弊と相まって多くの犠牲者を出し続けている。

低中所得国のワクチン接種率を高める取り組みを続けなければならない。この3年間の教訓は、ヘルスケアシステムの立て直しなしには、新たな危険に対処できないことを教えている。